

番号	9	平成28年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地整備課]		
事業名	畑地帯総合整備事業（担い手支援型）		事業主体 静岡県		
箇所名	富士西		市町名 富士市		
事業概要					
受益面積	159.0ha	採択年度	平成17年度		
		完了年度	当初 実績		
			平成22年度 平成22年度		
事業費	当初	996百万円（H17事業採択時）	実績 1,096百万円		
事業量	畑地かんがい 面積159ha（用水管路 延長32,719m） 農道工 延長1,220m（幅員 3.5m）				
事業の目的・必要性					
<p>本地区は、富士市西部の富士川堤外地（松岡）及び丘陵地（岩本）の159haであり、茶、みかんの樹園地農業を主としている。本地区の用水施設は昭和40年代初頭に整備したが、老朽化により年々破損事故が多くなり、安定的な用水供給ができず農業経営に支障をきたしていた。また、道路に接しない園地が多く、担い手農家への農地集積の障害となっていた。本事業では、畑地かんがい159haの更新工事と農道整備を行い、安定した用水供給と農作業の省力化を図ることにより、担い手農家に農地を集積し農業経営の安定を図る。</p>					
事業の効果等					
費用対効果 分析結果	当初 (H17)	B/C 1.15	総費用 10.45 億円 （事業費：10.45 億円） （再整備費等：- 億円） （関連事業費：- 億円）	総便益 12.05 億円 （農業生産向上効果：12.05 億円） （農業経営向上効果：- 億円） （地域資源保全・向上効果：- 億円）	基準年 平成16年
	事後	B/C 1.15	総費用 13.67 億円 （事業費：10.76 億円） （再整備費等：2.91 億円） （関連事業費：- 億円）	総便益 15.80 億円 （食料安定供給確保効果：15.80 億円） （農業持続的発展効果：- 億円） （農村振興効果：- 億円） （多面的機能発揮効果：- 億円）	基準年 平成27年
1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 ・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、単価及び係数の更新により、総費用・総便益が増加した。					
2) 事業効果の発現状況 <食料の安定供給の確保に関する効果> ・農道整備により通作や農産物輸送に係る経費が削減した。 ※走行経費節減効果：（走行経費）事業前3,263千円⇒事業後3,042千円 ・農道整備により乗用型茶園管理機等の導入が可能となり、摘採など営農に掛かる時間が節減した。 ※営農経費節減効果：（労働時間）事業前1,260時間/ha⇒事業後208時間/ha ・畑地かんがい施設の更新により用水運搬に係る作業が軽減され、営農に掛かる時間が節減した。 ※営農経費節減効果：（防除作業時間）事業前357時間/ha⇒事業後240時間/ha					
事業により整備された施設の管理状況					
・農道は富士市、畑地かんがいは富士西農業用水利用組合が適正に管理している。 ※日常管理は、事業実施後に立ち上げられた活動組織「岩本山とかりがね堤を守る会」が、ふじのくに美農里プロジェクトに取り組み、畑地かんがいの管理や景観作物の植栽など地域ぐるみで活動を行っている。 畑かん施設の機能診断・点検・草刈：年2回 農道の点検・草刈：年2回					

事業実施による環境の変化

- ・担い手への農地集積が促進した。
※担い手農家への集積面積 H17 : 39.91ha(集積率23.5%) ⇒ H27 : 60.90ha(集積率33.6%)
- ・ふじのくに美農里プロジェクトの活動により、そば栽培等を行い、収穫したそばで試食会を開催し、地域の老人の方々に味わっていただく活動をしている。
- ・茶の高品質化のため、日光を遮るにより緑色と旨味を増す被覆茶栽培への取り組みが見られる。

社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・建設中の新々富士川橋につながる都市計画道路沿いに平成26年11月から岩本山産直市がオープンし、みかん、きんかん、キウイ、イチゴ、キャベツ、白菜、大根、ブロッコリー等の地区の農産物を求める多くの客が訪れている。
- ・富士山が世界文化遺産に登録され、国内外からの「富士山」に対する関心が高まる中、隣接する岩本山公園からの富士山の眺望が良く、多数のイベントも行われていることから、観光客の増が見込まれる。

(2) 地域経済の動向

- ・富士地域の茶は県内茶産地の中でも遅場所地帯であり、産地の評価が低い市場の価格が低くなっているが、一方、担い手農家は自販により所得を維持している。
- ・明治初期頃富士地域で生産された幻の手揉み茶「天下一品茶」の再現を富士市茶手揉保存会が行い、世界お茶まつりで販売し、富士のお茶のPRとブランド化を進めている。

対応方針(案)

(1) 評価結果

事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。

- ・農道、畑地かんがいの整備により、営農労力の節減のほか担い手農家への集積が進み、産地としての生産力強化が図られた。

(2) 今後の課題等

- ・産地の競争力強化に向け、担い手農家が地域における営農の大部分を担うべく、農地中間管理事業等を積極的に活用し、更なる農地集積と営農コストの縮減を図る必要がある。
- ・農業経営のさらなる安定化を図るため、畑地かんがいを利用する新規作物の導入と、茶と新規作物やその加工品との複合経営を研究する必要がある。
- ・周辺道路の整備により、新東名高速道路や東名高速道路とのアクセスの向上が期待されることから、交流人口の増大や農産物の販路拡大を図る取組を企画し、具体化していく必要がある。

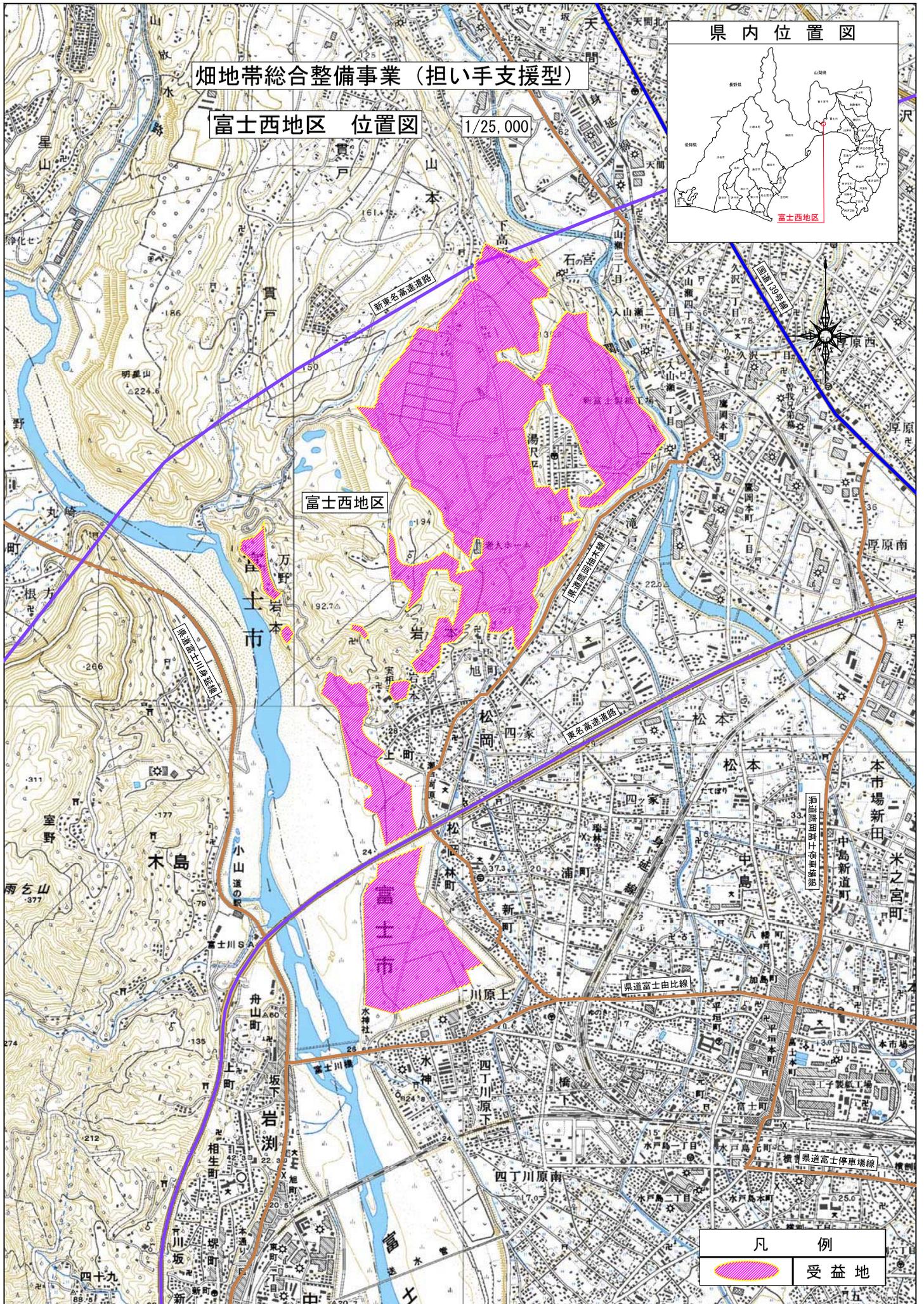
(3) 同種事業への反映等

- ・本事業では、地域が求める営農形態に合わせて必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含めて営農方針について協議し、地域の特徴を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）

富士西地区 位置図

1/25,000



●事業効果の発現状況



富士山の眺望が良い管理された農地

<農道工>
事業実施前

事業実施後



狭小な現況道路

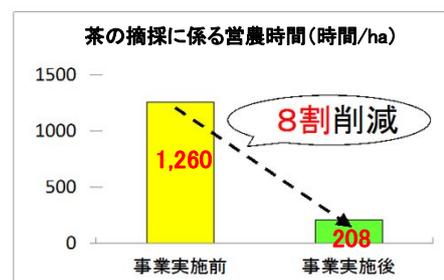
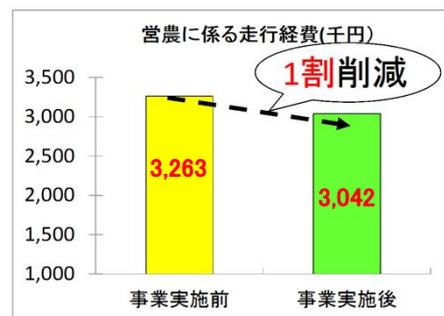


拡幅により2tトラックの走行が可能

輸送距離の減少と平均輸送速度の向上により、営農に係る走行経費が約1割削減された。

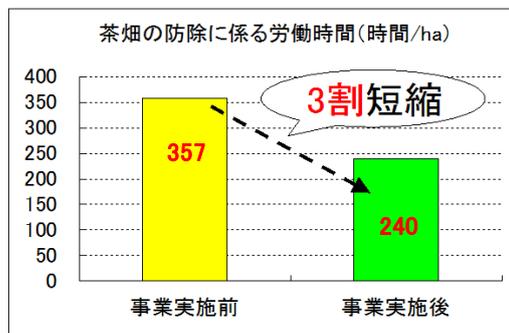


乗用型茶園管理機による作業

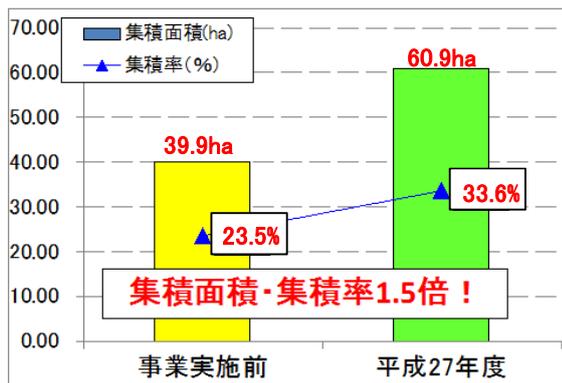


乗用型茶園管理機の導入により、茶に係る営農経費が約7割削減された。

<畑かん工>



給水栓が整備されたことにより
茶の防除に係る労働時間が短縮



担い手農家への農地集積面積が1.5倍に増加



ふじのくに美農里プロジェクトによる
用水施設の管理

●事業実施による環境の変化



ふじのくに美農里プロジェクトによる
収穫したそばの地域老人への試食会



高品質化のため、被覆茶栽培

●社会経済情勢等の変化



多くの客が訪れる岩本山産直市



天下一品茶



世界お茶まつりでも
天下一品茶を販売

